

第7回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成28年8月25日(木)に第7回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1階多目的室 1で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、訪問看護師、MSWなど様々な職種の方々が32名参加されました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の末重千里看護師長を司会として、宮内副看護師長の「緩和ケアミニレクチャー」から始まり、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

緩和ケアミニレクチャー「望んだ場所で療養するために医療者のできること」

山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

宮内貴子副看護師長

事例：「大学病院から在宅での看取りを迎えた40歳代の膵臓がん症例」

山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

松元満智子先生

すえなが内科在宅診療所

末永和之先生

訪問看護おかふじ

岡藤美智子先生

参加者からは、「今回の症例で色々な施設の多職種の方の連携の重要性を理解でき、それぞれの立場の方の熱い思いが伝わってきました。参加できて良かったです」、「在宅の方の話を聞いて勉強になりました」、「たくさんのヒントをいただけて、明日からの看護に役立ちそうです」などの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、多くの様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》

